産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（28～29年度：計画作成主体：太田市地域農業再生協議会）（群馬県）

取組の概要

対象品目　：野菜（ﾎｳﾚﾝｿｳ、ｺﾏﾂﾅ、ﾚﾀｽ、ｷｬﾍﾞﾂ ﾈｷﾞ、ｱｶｼｿ、ｴﾀﾞﾏﾒ、ﾆﾗ、ﾐｽﾞﾅ等）
対象面積178.6ha（新田・尾島地域）

主な取組主体：新田みどり農業協同組合
対象生産者574名（新田・尾島地域）

成果目標　：集荷コストの10%以上を削減
基準（H26年度）10,905円/1t
目標（H30年度）　9,281円/1t

導入施設等　：整備事業
集出荷貯蔵施設（真空予冷装置）

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

新田みどり農協管内の新田・尾島地区は野菜の生産が盛んで、ホウレンソウ、エダマメ、加工用レタスなど、鮮度が重視される品目が多数を占めている。

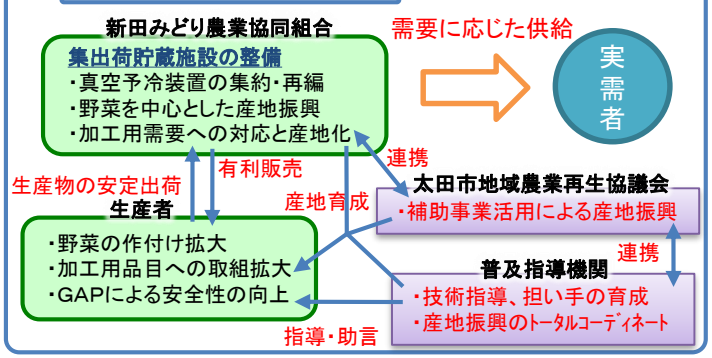
近年、加工用契約栽培の産地拡大を進めている中で、予冷による鮮度保持の重要性が増してきている。これまで２か所に設置されていた予冷施設を活用してきたが、市街化の進展や生産者の高齢化等により、集荷量が当初の計画よりも減少していることから、施設の集約・再編による利用計画の変更に取り組んだ。

【産地の体質強化に向けた方策】

①従来からの真空予冷施設（2か所）を集約・再編することで、作業効率を上げ、人件費やメンテナンスコスト等を削減する。

②加工用契約販売の拡大により、安定収入を確保し、生産者の栽培意欲を向上させ、栽培面積の維持・拡大を図って出荷量を増大する。

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

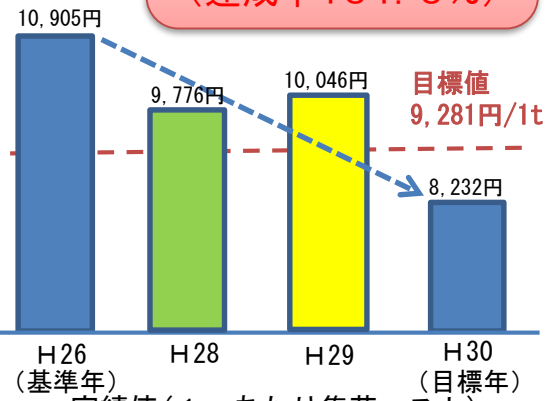
加工用レタスでは実需者の要望により、MGG（ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｷﾞｬｯﾌﾟ）に取り組んでいる。また、キャベツでは土壌分析を行い、ミネラル栽培に取り組んでいる。

取組成果

【事業実施による直接効果】

従来2か所あった真空予冷施設を1か所に集約したことで作業効率が上がり、人件費、メンテナンスコスト等が削減され、出荷者の手数料を下げることができた。

【事業実施による間接効果】

生産コストの削減により、産地間競争力が強化できたことで、産地の維持と生産者の意欲向上が図られた。

集荷コストの10%以上を削減（達成率164.6%）